

普及活動情勢報告（平成27年11月分）

中央東農業振興センター農業改良普及課

春菊の出荷が始まっています



圃場巡回の様子

10月28日と11月16日に、JA土佐香美オクラ春菊部会は春菊の出荷始めの目慣らし会および生産者圃場を巡回する現地検討会を開催しました。生産者36名が参加し、荷づくりや今後の栽培に関する注意点について検討しました。

農業改良普及課からは、今年発生の多い芯枯れ症の発生状況と対策について情報提供しました。芯枯れ症を含め、病害虫・生理障害等の対策についても生産者同士で、各々の対策を情報交換することができました。

今年は10月の豊富な日射量と11月の温暖な気候で、出荷量は十分確保できています。今後も現地検討会や販売検討会等を開催し、年末需要期に向けて安定生産・安定出荷を支援していきます。

ニラ調整作業機の導入に向けて



そぐり機の導入に合わせて
新作型を提案する普及指導員

11月の5日間、補助事業を利用して調整作業機の導入を検討しているニラ農家7戸を対象に、作型と収量を聞き取り、栽培規模に合わせた作型の改善や、新たな雇用形態などを提案しました。

調整作業員の能力に合わせて収穫するため、収量が少なくなっていることが明らかとなりました。

ニラ農家からは、「調整しやすいニラだけを収穫して捨てるものが多いので改善したい」「作型を前進化すれば抽苔が心配されるかどうか」「数年後には雇用者が高齢でリタイヤするので、調整作業機を有効に利用したい」などの意見が出されました。

今後、農業改良普及課では調整作業機の導入とニラ栽培が継続できる仕組みづくりを支援してゆきます。

南三島集落座談会



10月28日、南三島集会所に集落のリーダー8名が集まり、集落営農について話し合いました。参加者から、10月27日の先進地視察の報告が行われた後、農業改良普及課から集落営農の組織形態について説明を行いました。参加者からは、「自分が農業を辞めたための組織が必要」などの声が聞かれ、組織を作っていく方向で意見が一致しました。今後は、組織化の経営シミュレーションや集落アンケートを行っていくことがあわせて決まりました。

農業改良普及課では今後も南三島集落の集落営農組織の結成に向けて支援していきます。

南国市シシトウ 3JA 合同消費宣伝



淀橋市場まつりでの試食宣伝の様子

10月24、25日に南国市内の3JAシシトウ部会の園芸女性部6名が関東地方でシシトウの消費宣伝を行いました。24日は東京のヴェルジェ小平店、埼玉のヴェルジェ大宮店で「シシトウのベーコン巻き」を、25日は東京の淀橋市場の市場まつりにて「シシトウのポン酢和え」を試食宣伝しました。農業改良普及課はレシピの冊子を作成し、お客さんに配布しました。

お客さんからは「辛くないですか？」という意見が多かったのですが、試食をしてもらって「辛くない、おいしい。」という声が聞かれました。またレシピについての質問も多く、女性部が説明すると、「簡単にできるんですね。」という反応がありました。

農業改良普及課では、今後も南国市のシシトウ部会とともに、シシトウの消費拡大や生産量確保に向けた活動をしていきます。

「菰生米」生産者を対象としたG I（地理的表示保護制度）説明会の開催



熱心に講習会を受ける参加者

10月21日、JA香北支所で菰生米研究会を対象にG Iサポートデスクのエリアマネージャーを講師に招き、地理的表示保護制度について学習しました。

農業改良普及課では、「菰生米」のブランド化に向けて、表示制度への理解を深めてもらうために会の開催を企画しました。

参加者からは、「商標登録とどう違うのか」「この制度を導入したらどうなるのか」等の質問が出されました。講師からは、「名称や品質を国が保証してくれる」「生産方法を登録するので責任ができる」「皆が一つにまとまるチャンスにして欲しい」と提案されました。

米粉を使った加工品を開発中



大勢の方が協力して下さった
試食調査の様子

10月25日、香美市香北町のイベントで、直販所菰生の里の加工グループ「にろうまいこ」の4名が、試作している米粉加工品3種類の試食調査を行い、70名から回答を得ました。

農業改良普及課は、加工品の試作品作りを支援しており、消費者ニーズを把握するため試食調査を提案、調査内容を助言し、実施しました。調査では、「ユズの香りが良い、ちょうど甘さ」との意見や、「もっと軽い食感が良い」など率直な意見がありました。グループ員は調査結果を踏まえ、「更に試作を重ね、パッケージを工夫して買ってもらえる商品を作りたい」と、さらに意欲的に取り組んでいます。

農業改良普及課は、今後も、アドバイザーの協力を得て、商品化に向けた支援をしていきます。

ユズ栽培での荒選果作業の省力化に向けて



ベルトコンベアに約 2 秒間隔でユズを載せ、3 段階に選別されたものの生傷のみを確認する

11 月はユズの収穫最盛期であり、この時期ユズ農家は夜を徹して等級を選別する荒選果作業を行っており、高齢者にとっては負担が大きくなっています。

農業改良普及課では負担軽減を目的に、カメラセンサーを地域や個別に導入することを検討しており、既に導入している生産者について、機械の性能や作業方法などを調査しました。

生産者からは、「昼間には収穫、夜間には荒選果と負担が大きかったが、導入後には楽になり、早く正確な作業が可能となった」と評価していました。

農村女性リーダーのPR



PR活動（右：パネル展示、中：試食宣伝、左：農産物販売）

11 月 3 日の高知大学物部キャンパス一日公開に農村女性リーダー 8 名が参加し、試食宣伝、農産物販売等 PR 活動を行いました。

今年は、新たな活動内容として大学の餅つきへの協力、前年に来客者から要望のあった試食レシピの販売にも取り組みました。30 食分のニラチヂミは、好評により 1 時間足らずで売り切れ、「これほど売れるとは思っていなかった」との声もあり、次回への足がかりになりました。また、展示したパネルの前に立ち止って見ていく来客者も多くなり、活動の PR 効果も見え始めました。

農業改良普及課は、農村女性リーダーの活動が発展するよう、今後も支援していきます。